

PPS005-P02

会場:コンベンションホール

時間: 5月26日17:15-18:45

## はやぶさサンプルのキュレーション運用計画

### Operational procedures and schedule for Hayabusa returned sample in the Planetary Material Sample Curation Facility

藤村 彰夫<sup>1\*</sup>, 安部 正真<sup>1</sup>, 矢田 達<sup>1</sup>, 中村 智樹<sup>2</sup>, 岡崎 隆司<sup>2</sup>, 野口 高明<sup>3</sup>, 石橋之宏<sup>1</sup>,  
白井 慶<sup>1</sup>, 小川 真帆<sup>4</sup>, 田中 智<sup>1</sup>, 小林 直樹<sup>1</sup>, 岡田 達明<sup>1</sup>, 加藤 學<sup>1</sup>, 上野 宗孝<sup>1</sup>, 向井 利典<sup>1</sup>

Akio Fujimura<sup>1\*</sup>, Masanao Abe<sup>1</sup>, Toru Yada<sup>1</sup>, Tomoki Nakamura<sup>2</sup>, Ryuji Okazaki<sup>2</sup>,  
Takaaki Noguchi<sup>3</sup>, Yukihiro Ishibashi<sup>1</sup>, Kei Shirai<sup>1</sup>, Maho Ogawa<sup>4</sup>, Satoshi Tanaka<sup>1</sup>,  
Naoki Kobayashi<sup>1</sup>, Tatsuaki Okada<sup>1</sup>, Manabu Kato<sup>1</sup>, Munetaka Ueno<sup>1</sup>, Toshifumi Mukai<sup>1</sup>

<sup>1</sup>宇宙航空研究開発機構, <sup>2</sup>九州大学, <sup>3</sup>茨城大学, <sup>4</sup>東京大学

<sup>1</sup>Japan Aerospace Exploration Agency, <sup>2</sup>Kyushu University, <sup>3</sup>Ibaraki University, <sup>4</sup>University of Tokyo

我が国では、小惑星サンプルリターンミッションであるはやぶさ探査機の2010年地球帰還をはじめとして、惑星物質試料の回収を目指すミッションの実施および検討が進行中である。そのインフラとして、惑星物質試料受入設備が2008年3月に宇宙航空研究開発機構に完成した。この施設には、清浄なクリーンルームの中に、種々の洗浄及びその評価を行う機器設備、一次記載を行う観察・計測装置、試料を保管管理する設備などがある。またこの中には、試料を大気圧高純度窒素雰囲気、あるいは大気圧から超高真空の環境で取り扱うことのできるクリーンチャンバーを設置している。微小なサンプルを清浄な環境の下で取り扱うことを想定した仕様であり、重希ガスサンプリングや秤量、分配、封入などでは特別な工夫をしている。

本設備は大学共同利用設備であるが、当面は最初の受入試料であるはやぶさ回収試料のキュレーション作業に使用される予定である。2008年度には、この設備の基本的な機能性能確認のための総合試験が実施され、2009年度にははやぶさ回収試料のキュレーション作業を想定したリハーサル試験を実施している。

本講演では、この1年間の運用実績と2010年のはやぶさ帰還後の試料受入を想定した運用計画などについて報告を行う。

キーワード: サンプルリターン, 惑星物質試料, キュレーション, はやぶさ, イトカワ, 小惑星

Keywords: sample return, planetary material sample, curation, Hayabusa, Itokawa, asteroid